

中部地方整備局事業評価監視委員会（令和7年度第4回）

議 事 概 要

1. 日 時 令和7年12月11日（木） 15:00～17:00
2. 場 所 TKP ガーデンシティ PREMIUM 名古屋新幹線口
バンケットホール 2A
3. 開催方式 対面・web 会議併用
4. 出席者
 - 事業評価監視委員会委員
松本委員長、大窪副委員長、阿部委員、中澤委員、中村委員
能島委員、松尾委員、山田委員
 - 中部地方整備局
森本局長、中原副局長、濱田企画部長、小倉建政部長、高畑河川部長、
望月道路部長、寺田営繕部長、木村用地部長、三島港湾空港部長
5. 議 事
 - 1) 対象事業の説明審議
(再評価)
 - 【道路事業】
 - 一般国道1号 北勢バイパス
 - 一般国道23号 鈴鹿四日市道路
 - 一般国道23号 中勢道路
 - 一般国道158号 中部縦貫自動車道 高山清見道路
 - 一般国道158号 中部縦貫自動車道 高山東道路（平湯～久手）
 - 一般国道153号 豊田北バイパス
 - 一般国道155号 豊田南バイパス
 - 一般国道256号 堀越峠道路
 - 【砂防事業】
 - 安倍川水系直轄砂防事業
 - 【港湾事業】
 - 下田港 防波堤整備事業

2) 報告

【河川事業】

- 木曾川直轄河川改修事業
- 長良川直轄河川改修事業
- 揖斐川直轄河川改修事業
- 木曾川上流特定構造物改築事業（新水門川排水機場）
- 木曾川総合水系環境整備事業

6. 審議結果等

1) 再評価対応方針（原案）については以下のとおり了承された。

【道路事業】

- 一般国道 1 号 北勢バイパス . . . 了承
- 一般国道 2 3 号 鈴鹿四日市道路 . . . 了承
- 一般国道 2 3 号 中勢道路 . . . 了承
- 一般国道 1 5 8 号 中部縦貫自動車道 高山清見道路 . . . 了承
- 一般国道 1 5 8 号 中部縦貫自動車道 高山東道路（平湯～久手）
. . . 了承
- 一般国道 1 5 3 号 豊田北バイパス . . . 了承
- 一般国道 1 5 5 号 豊田南バイパス . . . 了承
- 一般国道 2 5 6 号 堀越峠道路 . . . 了承

【砂防事業】

- 安倍川水系直轄砂防事業 . . . 了承

【港湾事業】

- 下田港 防波堤整備事業 . . . 了承

2) 再評価対応方針（案）については以下のとおり報告を行った。

【河川事業】

- 木曾川直轄河川改修事業 . . . 報告
- 長良川直轄河川改修事業 . . . 報告
- 揖斐川直轄河川改修事業 . . . 報告
- 木曾川上流特定構造物改築事業（新水門川排水機場） . . . 報告
- 木曾川総合水系環境整備事業 . . . 報告

3) 委員会当日に委員より出された意見・質問及び回答

項目	意見・質問	回答
多様な便益について	時間信頼性向上の便益について、ばらつきの評価はどのようにされているのか。	道路整備を行うことで目的地までの到達時間のばらつきを評価しているものであり、OD 調査等の結果から到達時間のばらつきが減ることを定量的に算出している。
	余裕時間が短くなることも考慮しているのか。	その通り。
	算定対象としている OD 調査については、局所的なものではなく、その路線に関する全ての OD 調査の結果を考慮しているのか。	その通り。
	評価対象としているばらつきについて、日単位のばらつきや時間単位のばらつき等が実際あると思うあるが、本評価では何を対象としているのか。	リンクの長さ、交差点数等を用いた算定式から標準偏差を算出して、OD ペアごとに算定し足し合わせて評価している。
	試行対象とする多様な便益について、複数ある中から今回 3 つ選定して算出しているが、事業によっては選定される便益は変わってくるのか。	現時点では、そのとおりである。
	マーケットアクセスを定義するにあたり、大都市雇用圏と小都市雇用圏の区別はされているのか。小都市から大都市への移動と、大都市から小都市への移動を同様に定義してよいか気になった。	本評価では、大都市と小都市の区別はしていない。引き続き検討していきたい。
	多様な便益について定量的に評価しているとのことだが、事業実施により得られる歩行空間が確保されていることに対する安心感や、災害時の不安感の解消については、どのように定量的に評価するのか。	現在検討されている手法としては、歩行空間等に対して負担する金額をアンケート等で支払い意思額等を調査し、便益を算定することを考えている。

項目	意見・質問	回答
<p>(重点審議) 一般国道1号 北勢バイパス 一般国道23号 鈴鹿四日市 道路 一般国道23号 中勢道路</p>	<p>北勢バイパスの道路構造の変更について、地域住民と協議を重ねた結果、大型ブロック積擁壁から函渠に変わったという話があった。平成4年度に事業化しているが、現在にいたるまで、住民の環境意識が徐々に高まった故の協議なのか。もしくは、当初から協議はあったものの時間を要したため、このタイミングで構造変更を行ったのか。</p>	<p>構造変更を行うこれまでの経緯については、平成5年に地域住民からの差止め訴訟があったが、平成11年に原告請求棄却となった。</p> <p>その後についても、地域住民と協議を重ねてきたが、令和元年に地域住民による北勢バイパス建設に伴う協議委員会が立ち上げられた。</p> <p>その協議会の結果を受けて、四日市市から改めて要望があり、道路構造の見直しを行った。</p> <p>したがって、事業化当初から地域住民は環境への関心が高く、適切に意見を交し合った結果、このタイミングでの構造変更となった。</p>
	<p>構造変更の経緯について承知した。変更した経緯について資料に記載しても良いと思う。</p>	<p>ありがとうございます。</p>
	<p>事業化初期から函渠としていたら、工事費は違ったのではないか。</p>	<p>その通り。</p>
	<p>P2の全体事業費について、304億円増となっているが、個別説明の中では308億円増となっていたがなぜか。</p>	<p>コスト縮減対策により4億円減となっており、P2の全体事業費については、それを考慮した金額を記載している。</p>
	<p>工期を短縮するために工法を工夫し、それにより費用増に寄与しているとの話があったが、内訳について教えてほしい。</p>	<p>函渠本体が約66億円、仮設費に約171億円、函渠に設置する照明などの設備費用が約4億円、用地補償費が約22億円、その他土工で約4億円の費用が発生している。</p>
	<p>開削施工としていたとしても、先ほどの仮設費がなくなるわけではないということか。</p>	<p>その通り。函渠構造も通常は、鋼矢板に切梁腹起こしを用いた仮設になるが、今回、工期短縮のために函渠を一部プレキャストにすることにより、切梁が設置出来ないことから自立式の鋼管矢板を用いる計画としている。このことが費用増の大きな要因となっている。</p>

項目	意見・質問	回答
	<p>今回参考資料の中で、多様な効果の便益を算出されているが、B/Cは算出しないのか。</p>	<p>新規事業化の案件の時は参考値として示すが、再評価時については試行的に便益を算出しているため、B/C算出上の便益には加算していない。</p>
	<p>事業全体の便益のうち、走行時間短縮便益だけ前回評価時より下がっているが、なぜか。</p>	<p>供用年の見直しによる効果発現時期の遅れにより社会的割引率に伴う便益減少の影響が出ることと、原単位の変更による便益増加の影響との差し引きによって、現在価値化した際に前回評価時より走行時間短縮便益が減少している。</p>
	<p>現道の23号道路が津波の浸水域であるが、新設される道路についてはより内陸側に位置し、リダンダンシーが確保されている。非常に重要な効果であると思うが、検討会で多様な効果として取り入れる議論はされているのか。</p>	<p>今回、貨幣換算可能な効果を主に議論されている状況であり、定性的な評価についても今後検討していかなければならないと考えている。</p>
<p>(一括審議) 一般国道158号中部縦貫自動車道高山清見道路 一般国道158号中部縦貫自動車道高山東道路(平湯～久手)</p>	<p>切土法面に発生したクラックに対し、応急対策として押え盛土を実施しているとのことだが、そのまま押え盛土を有効活用して恒久対策を実施していくことは検討されたのか。</p>	<p>検討している。 構造の安定性を最重要事項としたうえで、コスト等の要素を踏まえ比較検討を行っている。</p>
	<p>クラック発生箇所の地質は特殊であるのか。</p>	<p>非常に風化しやすい地質である。</p>
<p>(一括審議) 一般国道153号豊田北バイパス 一般国道155号豊田南バイパス</p>	<p>(意見なし)</p>	

項目	意見・質問	回答
<p>(一括審議) 一般国道256号 堀越峠道路</p>	<p>下呂インターから郡上八幡インターが繋がると、それぞれの観光地に対する回遊性への寄与が大きいと思う。</p>	<p>観光に対する効果を貨幣価値換算し、B/Cとして表せられるとよいが、現在は検討手法が確立されていないため、定性的な効果も含めて事業の必要性を発信していきたい。</p>
	<p>岐阜県からの意見として、最新技術の活用等による徹底したコスト削減を望むとあるが、通常新しい技術は費用がかかると思っている。土木分野においてはそうではないのか。</p>	<p>土木分野においても、導入初期段階では最新技術の活用が必ずしもコスト削減には繋がらないため、コスト削減につながる取組を導入することを考えている。</p>
	<p>対象道路が一部連続していないが、一体として評価してよいのか。</p>	<p>不連続箇所をつなぐ現道が限られているため、一体ネットワークとして評価している。</p>
	<p>改良されている路線は容量が上がり、走行速度も確保されるが、改良されていない現道がボトルネックになると思っている。事業評価においては、現道における便益の減少は除かれているため違和感がある。</p>	<p>道路ネットワークとしては、今ある道路も含めて利用があるので、一体評価としている。調査中として位置付けている現道のB/C等の取扱いについては、引き続き議論していきたい。</p>
<p>(重点審議) 下田港防波堤整備事業</p>	<p>津波の到達時間を大幅に遅らせることが効果的であると思うが、定性的な効果として算定しているのか。</p>	<p>発生頻度の高い津波を引き起こすレベル1地震動である東海地震を想定して、浸水域の低減効果を算出しているが、到達時間の低減効果については定性的な効果として見込んでいない。</p>
	<p>設計の外力はレベル1想定ということだが、東海地震はレベル2相当の地震動ではないのか。</p>	<p>レベル1地震動である。 当該評価において被害の大きいレベル2津波は発生頻度が非常に低いものであるため、便益対象としていない。</p>
	<p>海難事故が起こる波高が1.75mということだが、実際にこの波高が発生した場合に避難が行われるのか。</p>	<p>アンケート結果より、実際の船舶が当該波高において避難行動を起こしていることを確認している。</p>
	<p>波高は5センチ単位で観測できるのか。</p>	<p>ナウファスという観測システムにより、1センチ単位で観測できる。</p>

項目	意見・質問	回答
<p>(重点審議) 安倍川水系直轄砂防事業</p>	<p>長寿命化対策について、耐摩耗性と耐衝撃性に優れた技術を導入しているが、技術が発達したため、このような対策が可能となったのか。</p>	<p>当初から技術はあったと認識しているが、近年、長寿命化ガイドラインが策定され、それに基づき計画を策定するにあたって、事後保全をする場合と比較し、コスト的にも有利となったため、長寿命化対策を実施することとした。</p>
	<p>P12 のイメージ図において、現在の施設の損傷度が高くなっているが、工期延伸などが要因となっているのか。</p>	<p>本図は概念図ではあるが、中期計画策定以前に施工された施設も含めて長寿命化の検討をしており、過去から工事をしてきているため、施設の損傷も進行している。</p>
	<p>人命保護効果について、事業実施による浸水範囲縮小に伴う評価であると思うが、便益には精神的被害抑止効果は含まれているのか。</p>	<p>土石流対策事業の便益においては、人命損傷に係る逸失利益および、精神的被害抑止効果、いわゆる人の命の値段を見込んでいる。</p>
	<p>本事業は事業期間が長いため、当初と比較し、特に上流部の集落においては、かなり人口減少していると思う。また土石流災害があるところに新規に人が住むことはあまりないと思う。このような人口減少について考慮されているのか。</p>	<p>今後の人口予測については B/C 算定には反映できていない。</p>
	<p>砂防事業を実施していくことと並行して、住民の方々がこの場のリスクを認識し、逃げるといった判断も選択肢の一つと考えている。</p>	
<p>(報告) 木曾川直轄河川改修事業 長良川直轄河川改修事業 揖斐川直轄河川改修事業</p>	<p>(意見なし)</p>	
<p>(報告) 木曾川上流特定構造物改築事業(新水門川排水機場)</p>	<p>(意見なし)</p>	

項目	意見・質問	回答
<p>(報告)</p> <p>木曾川総合水系環境整備事業</p>	<p>ネイチャーポジティブを進めていく必要があると思うが、河川の自然再生事業を行っている場所について、自然共生サイトに登録する予定はあるか。</p>	<p>自然共生サイトへの登録については、環境省と連携し準備が整い次第登録していく予定である。</p>
	<p>流域内のそれぞれの個別事業の実施により緑のネットワークを形成し、生物等全体に対しての相乗効果があると思うがいかがか。</p>	<p>自然再生事業を進めるにあたり、自然再生検討会にて自然再生計画を策定しており、木曾川の上流事務所、下流事務所で情報共有しながら進めている。</p> <p>上流から下流、川から田んぼのような面的な生態系ネットワークの視点も重要であると考えており、自然再生計画にも反映されているところ。</p>
	<p>本事業のうち、完了した事業については評価対象から除いて評価を行っているのか。</p>	<p>そのとおり。</p> <p>例えば B/C が高い完了事業があった場合にこれを含めて B/C を算出すると、水系全体の B/C が過剰に見えてしまうといった指摘が過去にあったため、事業計画が見直される場合において完了した事業は除くよう運用が見直されている。</p>
	<p>先ほどの質問回答に自然再生事業は上下流全体として計画を反映しているとあり、効果が発現している部分もあると考えられるため、完了した事業を評価対象から除くという評価手法は考えが矛盾しているように感じる。</p> <p>完了した事業を評価対象から除いている経緯については先ほどの説明で理解をしたが、その説明がないと理解しづらいと思う。</p> <p>また検討いただきたい。</p>	